

令和5年度事業報告

事業概要

当協会は、手足の不自由な子どもたちの豊かな生活を実現するため、公益目的事業として肢体不自由児の支援事業と肢体不自由児理解促進事業を行った。

支援事業としては、自立活動支援事業、地域活動支援事業、器具貸与事業により肢体不自由児の自立と社会参加を促す支援を行った。肢体不自由児理解促進事業では募金事業、ボランティア育成事業、交流事業、調査及び情報提供事業により、障がいのある人もない人も共に支えあいながら暮らせるよう障がい者への理解を求めた。

1 法人の運営

(1) 理事会の開催

ア 第1回（通常）理事会

期 日 令和5年5月21日（日）

場 所 千葉県社会福祉センター 3F 会議室

議 事 第1号議案 令和4年度事業報告（案）の承認について
第2号議案 令和4年度決算（案）の承認について
第3号議案 令和5年度定時評議員会の開催について

イ 第2回（通常）理事会

期 日 令和6年3月3日（日）

場 所 千葉県社会福祉センター3F 会議室

議 事 第1号議案 令和6年度事業計画(案)について
第2号議案 令和6年度予算(案)について
第3号議案 資金調達及び設備投資の見込みについて
第4号議案 令和5年度臨時評議員会の開催日程について

報告事項 第1号 理事長および業務執行理事の職務執行状況の報告について

(2) 評議員会の開催

ア 定時評議員会

期 日 令和5年6月18日（日）

議 事 第1号議案 令和4年度事業報告（案）の承認について
第2号議案 令和4年度決算（案）の承認について
第3号議案 役員を選任の承認について

報告事項 第1号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について

- イ 臨時評議員会 書面表決にて開催
 期 日 令和6年3月24日(日)
 議 事 第1号議案 令和6年度事業計画(案)について
 第2号議案 令和6年度予算(案)について
 第3号議案 資金調達及び設備投資の見込みについて
 報告事項 第1号 理事長および業務執行理事の職務執行状況について

(3) 決算監査会の実施

- 期 日 令和5年4月25日(火)
 場 所 千葉県社会福祉センター 4F相談室
 監査人 監事 永長 徹 渡辺 絹代
 協 会 横川事務局長 石井顧問税理士

2 自立活動支援事業

① 療育キャンプの実施

日頃、野外活動を楽しむ機会の少ない肢体不自由児者が家族と離れて宿泊し、室内でのレクリエーション等の活動を通して自主性と社会性を高め、参加者同士の交流を深めた。

また、2日目はマザー牧場にて動物のショーやバーベキューを楽しんだ。

期 日 令和5年8月26日(土)～8月27日(日)

宿泊地 「ホテルポートプラザ千葉」

参加者

| 1日目 | | 2日目 | |
|--------|--------------|--------|--------------|
| 障がい者 | 7名 | 障がい者 | 10名 |
| ボランティア | 8名 | ボランティア | 9名 |
| 職 員 | 2名 | 保護者 | 2名 |
| | <u>宿泊16名</u> | 職 員 | 2名 |
| | | | <u>計 23名</u> |

② 障がい児・者へのコミュニケーション支援研修会

重症心身障がい児者の意思決定や疎通を図るため、障がい者・保護者・保育士・施設職員等を対象にした研修会を開催した。(有限会社オフィス結アジア共催)

期 日 令和5年9月3日(日)

場 所 千葉県社会福祉センター 3F会議室

講 師 2名

下川和洋氏 (NPO 法人地域ケアさぽーと研究所理事)

「重い障害のある方へのコミュニケーション支援」

高橋宜盟氏 (一般社団法人 結ライフケアさぽーと研究所理事)

「指伝話は機械ではなく機会です」

参加者 20名

③ 肢体不自由高校奨学金

県内に住む肢体不自由で高校在籍者 6校 8名に対し 1人 2万円の交付を行った。

交付者数 8名

- ・ 千葉県立松戸特別支援学校 2名
- ・ 千葉県立富里特別支援学校 1名
- ・ 千葉県立銚子特別支援学校 1名
- ・ 千葉県立袖ヶ浦特別支援学校 2名
- ・ 千葉県立流山特別支援学校 1名
- ・ 麗澤高等学校 1名

3 社会参加活動支援事業

① 親子の旅の実施

日頃、旅行する機会の少ない在宅肢体不自由児者とその保護者を対象に日帰りのバス旅行を 1回、現地集合での食事交流会を 1回実施した。

| | | |
|-----|-----|--------------------------|
| 1回目 | 期 日 | 令和 5 年 6 月 25 日 (日) |
| | 見学等 | 舞浜ヒルトンホテル レストランフォレストガーデン |
| | 参加者 | 障がい者 13名 |
| | | 付 添 13名 |
| | | ボランティア 2名 |
| | | 職 員 2名 |
| | | <u>計 30名</u> |

| | | |
|-----|-----|---|
| 2回目 | 期 日 | 令和 5 年 10 月 1 日 (日) |
| | 見学等 | お台場マダムタッソーと舞浜ヒルトンホテルレストラン フォレストガーデンビュッフェ |
| | 参加者 | 障がい者 10名 |
| | | 付 添 9名 |
| | | ボランティア 1名 |
| | | 職 員 2名 |
| | | <u>計 22名</u> |

4 療育相談事業

肢体不自由児の保護者、又 障がい者本人からの療育についての相談事業を行なった。年間を通じて個別の面談相談 32 件、電話・メールにての相談 116 件。

5 車椅子・訓練器具の無償貸与事業

① 車椅子貸与

肢体不自由児の生活範囲を広げ、より活発に社会参加の機会を拡大するため申請のあった 16名 に車いす 16 台を貸与した。なお電話による相談が 27 件あった。

② 緊急車いす貸与

健常児者で急なケガや病気などで一時的に車いすが必要となった 15名 に対し車いすを 3 ヶ月を上限に貸与した。なお、利用者は市役所、市社会福祉協議会、病院からの紹介者が半数以上だった。

③ 訓練機器の貸与

肢体不自由児が、障がいの程度に応じて家庭において訓練ができるよう、医師の判定を受けた新規申請者 29 名、前年度からの継続貸与者 51 名、計 80名 に訓練器具を貸与した。なお、電話による相談が 37 件あった。

年齢別貸出人数（新規）

種類別貸出台数

| 年齢別 | 人数 | 器具種別 | 台数 | 器具種別 | 台数 |
|-------|----|----------|----|----------|----|
| 1～3歳 | 11 | オルソチェア | 4 | PCウオーカー | 30 |
| 4～6歳 | 16 | フローアシート | 3 | U型歩行器 | 2 |
| 7～12歳 | 2 | クッションチェア | 6 | ポニーウオーカー | 0 |
| 13歳～ | 0 | SRCウオーカー | 35 | 合計 | 80 |
| 合計 | 29 | | | | |

新規申請者主な通院医療関係機関

| | |
|-----------------|-----|
| 千葉リハビリテーション | 18名 |
| 県立子ども病院 | 2名 |
| 東京女子医大八千代医療センター | 2名 |
| 松戸市立総合医療センター | 1名 |
| 千葉大学附属病院 | 1名 |
| その他 | 5名 |

新規申請者主な市町村

| | |
|-----|-----|
| 千葉市 | 7件 |
| 流山市 | 2件 |
| 市原市 | 2件 |
| 浦安市 | 2件 |
| 茂原市 | 1件 |
| その他 | 15件 |

6 肢体不自由児に対する理解促進及び情報提供事業

① 絵はがき等頒布運動事業

「手足の不自由な子どもを育てる運動」期間を中心に、「愛と友情の絵はがき」（日肢協作成）、チーバくんクリアファイル（当協会作成）を活用して募金活動を行った。全県下の小中学校、盲聾特別支援学校の児童生徒・職員、官公庁・団体・企業等に広く働きかけ、肢体不自由児に対する理解と認識を深めた。

又、今年度も群馬県・新潟県、各肢体不自由児協会とコラボし、各県のキャラクターファイルのセット配布も行った。

募金協力数（絵はがき・クリアファイル・シール）

令和6年3月31日現在

| 対象 | ① 絵はがき | ② チーバくんファイル 2枚セット | ③ A4・A5ファイル 3枚セット | ④ おたのしみセット |
|------|-----------|-------------------------|-------------------------|---------------|
| 小中学校 | 3,076 | 9,829 | 5,738 | 27 |
| 一般 | 764 | 2,370 | 866 | 472 |
| 合計 | 3,810枚 | 11,659セット | 6,204セット | 499セット |

② 手をつなぐ作品展

県内小中高等学校と特別支援学校、盲聾学校の児童生徒が、作品を通じて相互理解を深めることを目的として、作文を募集したところ、作文68点の応募があった。審査会を経て優秀作品を選考し、表彰式を行い賞状と記念品を贈呈した。又、作品集を県内全学校に配布した。

③ 広報活動

協会の機関紙として、「ともしび」を年3回（4月、9月、1月）発行し、関係機関等に配布することにより協会の事業内容をPRするとともに、肢体不自由児に対する理解を深めることに努めた。（各2,600部配布）

④ ホームページによる情報提供

協会の事業、催しの案内、募集、その報告、訓練器具などの在庫状況などいつでも必要な情報を更新した。

7 バリアフリー情報提供事業

県内の観光施設・公共施設・娯楽施設などのバリアフリー度を調査し、ホームページで紹介する。これにより、県民の方々にも障がい者への理解を深めてもらう。現在紹介店舗・施設数 125ヶ所

8 障害者就労意欲向上支援事業

① ふれあいサロン（就労意欲向上支援事業）

年 11 回、第 3 日曜日の午前 10 時～15 時に、特別支援学校高等部卒業生を中心に障がい者の就職や生活相談などに関する悩みを傾聴したり、就労意欲を高めてもらうため、アドバイザーが個別のカウセリングやグループディスカッションを行った。

参加者（延べ人数）障がい者 95 名
アドバイザー 38 名
ボランティア 15 名

② 研修会（就労意欲向上支援事業）

学校を卒業後の障がい者の抱える不安に寄り添うため、「人間関係について」と題し、グループホームや施設、職場、友達などとの関わり方について福祉専門の行政書士による研修を行った。

開催 令和 6 年 1 月 21 日（日）
場所 社会福祉センター会議室
参加者 13 名
講師 行政書士 佐々木あづさ

9 肢体不自由児に対するボランティアを育成する事業

県内の肢体不自由児者の社会参加と自立を支援するため、協会行事への参加や他の団体が主催する催しへの派遣を行った

- ① ボランティアの育成と資質向上を目的に、車いす介助の研修を随時行った。
- ② 協会主催の障がい児・者へのコミュニケーション支援研修会への参加を募った。
- ③ 本会で実施する各種行事や関係施設行事にボランティア延べ 43 名が参加し、介助支援等を行った。
- ④ 「手足の不自由な子どもを育てる運動」のクリアファイルの梱包作業への協力を仰いだ

・令和 5 年度 ボランティアの会 登録者数

| | | | | | |
|-----|---|------|---|-----|---------|
| 社会人 | 男 | 13 名 | 女 | 5 名 | |
| 学生 | 男 | 2 名 | 女 | 4 名 | |
| 高校生 | | 1 名 | | | |
| | | | | | 合計 25 名 |

※淑徳大学のボランティアサークル員の減少により学生の登録者数が減ってしまったがすこしづつ活動に参加してくれた。

1 0 地域や関連団体への催し参加

- ① ガールスカウト千葉市協議会主催の親睦バザーに参加(5月)障がいを持つ4名もバザーへの出店を行い自ら作成した絵ハガキなどを販売し、働くことへの意欲を得た。
- ② 社会福祉法人愛光秋まつり(10月)に参加し、ゲームを行ったりバザーに出店し収益を得た。
- ③ 公益財団法人千葉交響楽団経由で「京葉銀行小さな親切運動」より8月と1月にコンサートに計14名が招待された。

1 1 その他

- ① 高額寄付6団体に感謝状贈呈した
- ② 関東周辺県の肢体不自由児協会のブロック会議を神奈川県肢体不自由児協会で開催され、事務局長が出席して情報交換を行った。